

議長の一言



佐藤 峯夫

個人住民税が上がり、さらに国民健康保険料の上限額も五十六万円と三万円の引き上げ。住民の悲鳴が聞こえる。六月議会でも九名の議員が国保引き上げに反対を表明。ここ数年の税制改正で高齢者への税負担も確実に重くなってきている。私共議員も、何らかの方法で「今こそ弱者、敗者への思いやりを取り戻さなくてはならない」と思う。

傍聴席

皆さんもつと傍聴しましょう

仙北市角館町

田口 洋子

初めて議会を傍聴させていただいて感じたことは、なげもつと早くこのような機会を作らなかつたのかと思いました。議会での皆さんが、常日頃どのような気持ちで仕事に取り組んでいられるのか、少しは感じることができました。何回か傍聴することで私達も大変いい勉強になっていくと思います。

もつと市民一人一人が議会に対して関心を高く持つことで緊張感が生まれてくるのではないのでしょうか。大変厳しい今だからこそ議会を傍聴する機会を多く作り、より良い市にするため議員の皆さんと共に学んでいかなければと感じさせられた一日でした。

「賤の風」にならぬよう教育委員会は本当のゲキロンを!!

仙北市角館町

遠藤 康

田沢湖駅に降りたら東風が涼しかった。八人の延べ八時間の一般質問を傍聴したが、関心事の教育とコトバの問題に限り感懐を述べたい。

曰く、ヒンモクオーダーンセイサク、と。「貧黙応男精錯」の字が頭に浮かんだ。正解は「品目横断政策」なる国の新農政策とのこと。凄い日本を官僚は考え出すものダ。

次に教育関係。「激論」が話題になり、教育の為には激論も辞さぬとの応答だが、内実はそんな高級なものではなく、委員会の在り方を巡る初歩的な見解の相違と感じた。

某博物館構想に関する地域住民の声を代弁しようとさせぬ委員会には頼りなく、ヨタラニヤと言われぬよう、本当の激論を切に希求する。

文化論のないままでは、「東風」は「賤の風」になってしまい、市民の心は涼しさを通り越し寒々となってしまうだろう。

編集後記

甲子園を目指しての、八十九回秋田大会がついに先日行われた。

読者皆様ご承知の通り、野球ファンは多い。特に高校球児のボールを追う姿は格別のものである。

仙北市立神代中学校から受験番号一番で見事合格し、秋田市立商業高校に入り、野球部に入った。

一年生から甲子園を経験した。

今年の大会ではキャプテンの大役をまかされた。

ポジションはセカンド。

表情も明るい。物事もキチンという頼もしい若い衆。

平岡達也君は燃えに燃えて夏の大会に臨んだ。

彼は田沢湖町平成十二年六月定例会議会日より九十一号に表紙で力強い大会にカラーで堂々たる写真で登場している。

